

福岡県の赤村というところに移り住んで、いわゆる「スローライフ」をやって9年目になります。

電気代は月500円程度、ガス代は月1000円弱です。自然からいただけるものは何でもいただきながら、自分で作れるものは手作りをする自給的な暮らしをしています。

ですから、お金は少なくて済みます。つまり稼ぎは少なくてもいいので、働く時間を少なくしました。その分、残りの時間は本を読んだり、田んぼ・畑をやったり、いろんなことをやっています。

栃木県にいらつしやる発明家の藤村靖之さんが「月3万円ビジネス」ということについて、著書の中でこうおっしゃっています。

「これからの時代は、田舎にいて月3万円稼げるビジネス、つまり、一般の会社が

相手にしないビジネスをやると、競争が起きないから問題なくできる。そして、9万円必要な人はそれを三つ、12万円必要な人はそれを四つやればいい」



まずは、現代社会が抱える問題を見ていきたいと思います。

今の社会の様々な問題を、僕は「構造的な暴力」だと考えています。

「構造的な暴力」というのは、システムが出来上がっていて、そこに参加すると、自分は暴力を振るっているつもりはなくても、結果的に暴力に加担してしまうという仕組みのことです。

たとえば原発なら、「原発大賛成!」とどんな動かそう!」と思って電気を使っている人ってほとんどいないと思います。

でも、電気を使うということが、原発依存の仕組みに加担する意思表示になっているわけです。それが「構造的な暴力」です。

この現実を作っている人々の意識として、「より早く」「より大きく」「より多く」「より強く」と、「もっと」「もっと」と求めるものがあります。

例えば、巨大なスーパーで安いものを買うと、その裏側には大量生産、大量消費の仕組みがあります。この仕組みのまま突っ走っていくと、地球も社会も人間ももたないと思います。

そのことを知る、分かりやすい指標が「エコロジカル・フットプリント」です。

日本人の平均的な暮らしを地球上の全ての人が行ったら、地球何個分の資源が必要かという指標で、2.5個といわれています。アメリカ型の暮らしだと、5個必要になります。

具体的に説明すると、財布に500円しか入っていないのに、1250円のランチを食べちゃったということですか。さあ、どうしますか?

半分笑い話ですけど、実際に、地球の資源の2.5個分の暮らしをしているということは、食い逃げをするか、ツケを未来に回すか、他の人にそれを払わせるか、他から奪って来るかしかないんです。

実際に、そういう状況があつて、そのツケは今、環境破壊や途上国に行っています。



そして、こうした考え方の中では、経済は成長し続けるものだとということ、そして、そのために競争しなければならぬということが大前提です。

でも、冷静に考えると、増え続けるものなんてあり得ないわけです。

## 現代社会が抱える「構造的な暴力」

### これを「構造的な平和」に

### 切り替えていきたい

## スローライフに生きる!

その1

自然と暮らしと平和のが「こころ」 「heart」 主宰

後藤 彰

